



担任の先生読み聞かせ

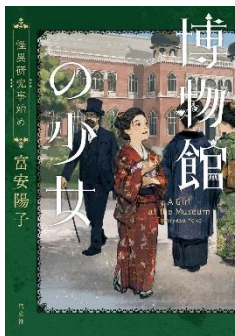
4月27日、「こどもの読書週間」に合わせ、毎年恒例の担任の先生による読み聞かせを行いました。懐かしいあかちゃん絵本や心温まる絵本、絵本ではない本の朗読、なかにはぞっとする怖い話も…先生方の個性が出る楽しい読み聞かせの時間でした！



お話玉手箱が始まります！

毎週水曜日の給食時間は、朗読「お話玉手箱」の時間です。ボランティアの坂本晶江さんと吉田ひとみさんが交代で、放送室から生放送で朗読をされます。本校で20年以上続けていただいている活動です。今年度は5月11日(水)から始まります。給食を食べながら、静かに聴きましょう。

『博物館の少女』富安陽子、偕成社



図書館にも
この本あります。

舞台は明治時代。大阪の古物商の娘イカルは、両親を亡くし東京の親戚の家に身を寄せる。初めて上野の博物館を訪れたイカルは、館長に目利きの才能を認められ、博物館の蔵で怪奇研究をしている「トノサマ」の助手をすることに。蔵の整理を始めたイカルは、隠れキリシタン由来の品とされる黒手匣がなくなっていることに気付く。誰が何の目的で持ち出したのか？イカルは黒手匣探しとその謎に迫る。



やきゅうぶ りくじょうぶ すいそうがくぶ おおつちゅうぶ ぶかつ ぶ えんげいぶ
 野球部、陸上部、吹奏楽部など大津中にもある部活から、うた部、園芸部…
 ちょっと変わった部活まで、いろいろな部活が描かれた小説を集めました！
 ほかにたくさん図書館にあります。

『グラウンドの空』あさのあつこ、角川書店



甲子園に憧れ中学で野球を始めたキャッチャーの瑞樹。しかし先輩が卒業するとピッチャーがいなくなってしまう。そこにピッチャーの才能を持つ転校生が現れる。

『あと少し、もう少し』瀬尾まいこ、新潮社



あの手にタスキをつないで、ゴールまであと少し！寄せ集めのメンバーと頼りない先生のもとで、最後の駅伝に挑む中学生の夏。

『熱風』福田隆浩、講談社



聴覚障害を持つ中学生の孝司。「こいつにだけは負けたくない」と思っていた順一と、あるテニスの大会でダブルスを組むことになるが、反発し合うばかり。そして試合数日前、順一がいなくなり…。

『快晴フライング』古内一絵、ポプラ社



廃部寸前の弓が丘第一中学水泳部。存続条件はメドレーレーで大会優勝。しかし残った部員は息継ぎもできない戦力外メンバーばかり。その時、人魚のように泳ぐ少女が現れ…。

『退出ゲーム』初野晴、角川書店



廃部寸前の弱小吹奏楽部で、吹奏楽の甲子園「普門館」を目指す幼なじみ同士のチカとハルタ。だが、さまざまな謎が持ち上がり…青春ミステリ「ハルチカ」シリーズ。

『たまごを持つように』まはら三桃、講談社



自信が持てず不器用な早弥。天才肌の実良。外国にルーツを持ち武道を愛する春。たまごを持つように弓を握り、心を通わせていく中学弓道部の優しい青春小説。

『うたうとは小さいのちひろいあげ』



村上しいこ、講談社
 高1の桃子は短歌を詠む「うた部」に入部。不登校の親友を思い高校生活を楽めない桃子だが、仲間とうたを詠みながら、少しずつ前に進んでいく。

『園芸少年』魚住直子、講談社



高校生活をそつなく過ごすとする篠崎、態度ばかりでかい不良の大和田、いじめられた経験から段ボールをかぶって登校する庄司。空に芽を伸ばす植物と共に成長する3人の物語。